43　『幼幼新書』宋版巻 38 と明抄本巻 38 との比較

川端かおり
日本鍼灸研究会

『幼幼新書』は南宋の紹興 20 年（1150）初刊の小児科全書である．全 40 巻のうち，巻 38 までが劉昉の編著で，劉昉の没後，門人の楼璹により 2 巻が付加されている．

『幼幼新書』のテキストは，宋版の巻 38 零本一巻が現存（内閣文庫所蔵）するほか，宋版に基づく明抄本（40 巻完存．宮内庁書陵部所蔵），明抄本に拠る日本近世写本が 4 種（①内閣文庫所蔵本〔寛政 3 年写．多紀元堅手校本．以下「元堅手校本」〕，②研医会図書館所蔵本〔①による江戸末重鈔．宝玲文庫旧蔵〕，③東京大学総合図書館所蔵本〔①による江戸末重鈔〕，④中国中医科学院図書館所蔵本〔①による重鈔．栖芬室＝范行准旧蔵本〕）伝存する．また，明・万歴 14 年（1586）に陳履端による節略本，これに基づく日本文政 4 年（1821）重刊本も刊行されている．よって『幼幼新書』は宋版の零本を貴重とするも，完存の明抄本を最善とする．

本発表では，宋版の巻 38 と明抄本巻 38 とを比較し，両者における字句の異同を明らかにするとともに，宋版巻 38 と元堅手校本巻 38 との比較，明抄本巻 38 と元堅手校本巻 38 との比較も併せ行い，明抄本ならびに元堅手校本の現状報告を試みるものである．

【宋版巻 38 と明抄本との比較】 明抄本の巻 38 は宋版と同じく 120 葉，10 行 16 字，18 篇で構成されている．同本には校勘された箇所が有り，付加字（宋版に無い文字），倒文（熟語の上下の文字が倒置）の箇所に，訂正（15 箇所）や文字の訂正書き換え（2 箇所）などの校訂が施されている． 明抄本における宋版との相違（数字は異同数）は以下の通りである．

［頭瘡第一］一字ずれ 5，倒文 6，異字（文字の相違）45，付加字 2，脱字 2，脱文 1，付加字に印（丸，斜線）6［禿瘡第二］異字 4，脱字 1［白禿瘡第三］倒文 2，異字 9，脱字 2，付加字に印 2［赤禿瘡第四］異字 1［漏頭瘡第五］異字 1，付加字に印 1［蠼螋尿瘡第六］一字ずれ 1，倒文 1，異字 5，脱文 1（93 字）［自懸瘡第七］異同無し［代指第八］一字ずれ 1，異字 3，付加字に印 1，改行の有無 1［手足皸裂第九］異同無し［脚瘃第十］異字 2［凍瘡第十一］倒文 1，異字 4［痱子第十二］倒文 2，異字 3，付加字 1，脱文 1（4 字）［赤疵第十三・黒疵附］脱文 1（3 字）［白駮第十四］文字の訂正書き換え 1，異字 1，脱文 2（倶に 4 字）．［漆瘡第十五］倒文 2，異字 3，付加字 1，付加字に印 2［金瘡第十六］一字ずれ 1，倒文 1，異字 16，付加字 1，脱字 1，付加字に印 2［湯湯火焼第十七］一字ずれ 2，倒文 3，異字 14，付加字 1，脱字 1，脱文 1（2 字），付加字に印 2［瘡中風中水第十八］一字ずれ 1，脱字 1，付加字に印 1，である．

巻 38 全体としては，文字の訂正書き換え 2，一字ずれ 13，倒文 19，異字 108，付加字 5，脱字 7，脱文 8，改行無し 1 である．

【宋版巻 38 と，元堅手校本に見える校勘記録との比較】 元堅手校本では，巻 38 において宋版巻 38 との異同の朱筆による訂正が見られる．訂正箇所は 111 で，内訳は字の訂正 93（朱筆），付加字に印（丸，傍線）18 である．しかし，一字ずれ 13，倒文 19，異字 50，付加字 4，脱字 4，脱文 5，無改行 1 の異同（96 箇所）については訂正が為されていない．

【明抄本と元堅手校本との比較】 異同は 129 箇所である．これら両者の異同は宋版とも相違する．このうち，元堅手校本では，宋版との校勘に基づき，98 箇所の朱筆による訂正が見られる．